

令和元年度 第12回FD・SD研修会報告

日 時：令和2年1月14日（火）14:50～15:20

講 師：教務部長／ビジネス実務学科 教授 矢澤 建明

テーマ：シラバス作成方法

大学や短大の授業には必ず「シラバス」というものがあり、学生は「シラバス」を参照の上、授業を選択します。しかも、ほとんどすべての大学短大でシラバスを公開することになっており、大学教育の質保証の目安となっているほど重要なものになっています。

次年度、本学は認証評価を受審しますが、今後シラバスでは、さらなる条件が要求されていくと予想されます。今回は、特に評価方法根拠の明確化ということで「ルーブリック」について、お話させていただきました。

以前より、シラバスには「成績評価の方法・基準」という項目があり、定期試験？%、レポート？%・・・（合計で100%になるように設定）といった記述をお願いしていました。しかし、「“定期試験”で～点取得すれば～ができるようになる」といった評価根拠は、いままでのシラバスでは示していませんでした。現在、「学習成果」を明示することがさまざまところで要求されてきており、いずれシラバスでも学習成果と成績との対比が求められてくると考えられます。そのためにも、次年度から専任教員はシラバスへの「ルーブリック」記載を徹底していくこととしました。

本学では、以前より「ルーブリック」は数多くの研修が行われてきており、授業内でレポート評価に使うなど導入されている先生方も多いと聞いております。ここでは、科目のルーブリックとして記載をお願いするものです。「ルーブリック」そのものの説明はここでは省略させていただきますが、ほとんどの専任教員は「ルーブリック」の研修を受けたことがある方ばかりですので、ルーブリックそのものについては理解されている方ばかりだと考えられます。また、担当科目の「学習成果」は何らかの文字で記述できるものであるはずで、それらを観点別に設定し、段階別に記述を分けることで、必ずルーブリックは作成できるものと考えております。

なお、本FDでは、昨年度のシラバスチェックで修正が多かった項目なども、報告しました。今年度もアクティブラーニングの記述など、昨年度同様のチェック項目ですが、毎年よりよいシラバスになっていくことを願っております。

